

被災体験談を収集

東松島市図書館 来年3月まで

大震災の記憶 風化させない

東松島市は、東日本大震災の記憶を風化させず後世に伝えようと図書館が中心となり市民の被災体験談の収集を進めている。映像や携帯電話のメール通信なども集め、来年3月までに記録作業を終え、各資料をデジタル化して一括保存。単なる記録集としてだけでなく、災害時の避難や対応など防災教育にも活用してもらう。

震災から時間の経過とともに、市民の記憶が徐々に薄れていくことに対応した取り組み。公益財団法人図書館振興財団(東京都)の支援を受けて「地域の絆保存プロジェクト」として約750万円をかけて取り組む。

■職員が直接出向く

職員が市内全8地区を手分けし、直接出向いて体験談といった情報を集める。作業は6月から本格化し、既に小学5年生から80代の高齢者まで27人の市民が聞き取りに応じた。

大津波が直撃した大曲

映像、メール通信も

区などの住民からは「救助を待つ間の空腹は耐えられなかったが、寒さは死ぬほどじゃなかった。ぬれた衣服を脱ぎ、カーテンで体を覆い低体温症になるのを防いだ」「極限状態の中で、家族を守る、家族のために生きたいと気持ち奮い立たせ生還できた」などの証言が寄せられた。

■子ども対象に記録

31日、8月10日には同市コミュニティセンターで子どもたちを対象に記録、編集ワークショップも開催する。図書館は「将来にわたる震災を語り継ぐことが、悲劇を繰り返さないことへの一歩になる」と話している。連絡先は図書館022-5(82)1120。

被災体験を聴く予定で、聞



三陸河北新報社

〒986-0827

石巻市千石町4-42

電話 0225-96-0321

FAX 0225-21-1668

気仙沼支社

〒988-0071

気仙沼市新町1-11

電話 0226-23-3254

河北新報メディアセンター

〒980-8660

仙台市青葉区五橋1-2-28

電話 022-211-1551

三陸河北新報社のホームページ

www.sanriku-kahoku.co

© 三陸河北新報社 201

デジタル化し保存 防災教育にも活用